

常磐新聞

發行編輯人 川崎文治

印刷所 常磐每日新聞社

福島縣石城郡平町字長橋町廿五番地

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元

印刷所 常磐每日新聞社

刊夕日二月六

常磐文藝

小曲「微笑」 光

そつと笑つた美しさ
袂の中が明るかる。
天使の様なほくえみよ。
につこり笑つた美しさ
楽しい現が通るだろ。
私の好きなほくえみよ。

川柳 馬目不洲坊

飛行機來爺さんまでが屋根
飛行機來爺さんまでが屋根
たかり
爆音がして飛行機はすぐか
くれ
宙返へり娘あらまあ連發し
人込みで白粉の香に惱ま
れ
辛いやう面白いやうに世を
渡り
才子多病天才とやらは肺で
死に
天才が平凡になつて肉がつ
き
豪い人三角法とやら用え
コックイはつまみ喰ひする
下女の顔
制服を脱いで妹も大人ぶり
雷にへんをおさいである子
ども
雷にさすが三味線ひけやら
ず
雷に南々私語をソツとやめ
晩しやくに親父のくせが出
初まる
スヤ／＼と三味の遠音に眠
るチン
金持ちは戀を知らずに死ん
で行き
何事ぞ髪をちぢらす乙女あ

江かばやき
前うらあ井

新築落成しました
相變らず御注文の際は
電話四一四番を
御利用下さい

御料理 魚榮
仕出し 魚榮
平町二丁目北裏通

常盤屋時計店

平町二丁目

電話三三九番

本店眼鏡部は各品多数取揃へ
電力應用で連時調整します

逸高眼鏡 (メニスカス) 問メニスレ
ンズを何ん
で皆さんが
お好みにな
るのです
答掛け心地
が良くて眼
や眼へは絶
對弊害がな
く晴々する
からです

山古印醫

元造 鹽屋本

電話二七番

美味 經濟

皮膚科 小兒科 内科 花柳病科

平町舊城跡(城山三の丸)

青沼醫院
醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

大御入禮

今回當館上映の『肉弾』及び『花の春遠山櫻』の
續篇は江湖各位の非常なる好評を博して毎夜
大入満員の盛況を呈し候段厚く御禮申上候今
後も御厚意に酬ゆる爲め一層映畫を吟味し館
員一同大車輪の活躍を試みる可く候間何卒御
最負の程幾重にも懇願仕候

帝國館
館主 北郷竹次郎

披露御店開

好仔店

良位安ク賣ル

クースリ

関内藥舖
藥劑師 関内栄助
電話四〇番

入院隨意

青沼醫院

醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

ハーディング氏の新聞道徳に就て(一)
門傳清吾氏(寄)

左は前米國大統領ハーシントン氏が
新聞記者及び新聞營業者の守るべき
道徳律を起草發表せる要點をお
參考迄て千葉區裁判所檢察代理
門傳清吾氏が本社に寄せられたも
のである

一ハーディング氏所説の要旨
「新聞の商業化」米國の新
聞界を見渡すに大都市に於
ては何れも新聞の買収統一
行はれ更に漸次小都市にて
も買収統一の波及するに至
り、之が爲めに現在新聞
の数は之を十年前に比較せ
ば約二割五分の減少を來し
たり。以前二三の日刊新聞
ありし所にて今僅かに

一の新開をもなくなり新聞
のシンデレイトは燎原の
火の如き勢にて蔓延しつゝ
あり、斯るが故に新聞業は
從來のタイプを脱し頗る重
要なる商業的企業とはなれ
り、此に於てか新聞は儲か
るものと云ふべき今日の状
態となり、要するに今日
の新聞は舊來の如き政黨の
御用爲したり或は一人の
利己的機關としての時代は
過ぎ今や新聞業は偉大なる
尊敬すべき商業的職業とな
りしなり、自分の所有せる
マシオン、スターの如きも
一再ならず買収交渉を受け
しが自分は如何に金を受く
るとも商業的新聞業者とな

り或は金持になるよりは單
に忠實なる新聞發行者たる
を欲し居たるが爲め其の交
渉に應せざりしなり、然れ
ども自分に於て新聞業を愛
し居らざりしなば恐らく二
つ返事にて賣拂しならん、
自分は新聞業に對し大略如
上の見解を抱き居るが故に
只今讀上げられたる法則に
對しては滿腔の賛意を表す
るものなり

然れども第三の「社會の利
益を忠實に擁護する以外は
總ての束縛を脱して自由に
活動する」と云ふ事に就き
一言意見を述べんとす

東新株 先限
實物
前場後場共入電致居候
平町田町 電話三三二番
丸登株式店
川添房二郎



株式賣買中値

左記の値段は本日標準値
に付御用の節は御問合願候

| | | |
|--------|-----|-----|
| 銘格 | 拂込 | 時價 |
| 磐城銀行 | 五〇〇 | 五七〇 |
| 平銀行 | 五〇〇 | 七三〇 |
| 磐越銀行 | 一一五 | 一〇五 |
| 磐城實業 | 三〇〇 | 二九五 |
| 田村實業 | 一一五 | 一七〇 |
| 四倉銀行 | 二〇〇 | 二四五 |
| 農工銀行 | 一五〇 | 一八八 |
| 同新 | 一五〇 | 五五〇 |
| 百七銀行 | 一一五 | 一六〇 |
| 同新 | 一一五 | 九八 |
| 七七銀行 | 一一五 | 三八五 |
| 郡山電氣 | 五〇〇 | 一八〇 |
| 同新 | 一一五 | 七三 |
| 只見川電 | 一一五 | 一五五 |
| 植田水電 | 一一五 | 一四〇 |
| 好間水電 | 一一五 | 一四五 |
| 磐城建物 | 一一五 | 六〇 |
| 磐城製菓 | 二〇〇 | 三五〇 |
| 平信託 | 五〇〇 | 一三五 |
| 磐城勸業 | 一一五 | 二八〇 |
| 植田物産 | 三〇〇 | 二二〇 |
| 平製水 | 二五〇 | 三五〇 |
| 好間軌道 | 五〇〇 | 一七〇 |
| 入山新 | 三二五 | 一一〇 |
| 小田炭礦 | 二五〇 | 四三〇 |
| 磐城炭礦 | 五〇〇 | 一九〇 |
| 同新 | 二二五 | 六八〇 |
| 磐城セメント | 五〇〇 | 三七〇 |
| 同新 | 二五〇 | 八〇 |
| 平運送 | 一一五 | |

平警察署構内 演武場落成式を舉行

天谷警察部長臨席 建築技師や棟梁を表彰

既報平警察署内演武場落成式は本日午前九時から同場にて舉行天谷本縣警察部長を初め井上小野兩縣議諸官廳代表者滑川警中校長、隣縣武道師範、新聞記者等二百數十名參列先づ中村警部補開辭を告げ飯田一二翁祭詞を奏上し伏見助役は建設委員を代表大要左の如き工事報告を爲し

昨年來數回の會合を催し演武場建設の件を協議し豫算を作製したが工事は寄附収入に依る事となし其額五千九百廿七圓卅五錢に達するを得、警城建物會社に請負はしめ二月廿八日地鎮祭を舉げ爾來工を督し四月卅日を以つて建築を了した其建坪道場卅七坪、階上五坪、其工費金額四千六百卅七圓依つて殘額の内より道場に於て必要なる器具を購入し其他諸般の經費に充當する事とした

次いで工事精勵の故を以つて伊藤平署長から警城建物會社佐々木技師並びに石川棟梁に表彰状を贈り同署長の式辭大日本武道會本縣支部長代理天谷警察部長の告辭あつて來賓の祝詞演説に移り井上縣議小澤愛次郎氏室直與木幡一氏々祝意を表した

劍道及び柔道の壯烈な試合

右の落成式終了後帝國館にて武道大會を開き大日本武道會支部長の告示や同平分会長の訓示あり劍道試合に移り擊竹の音勇しく優勝旗儲かる口は

山程も有之候

山崎清三氏の端書

平在郷軍人分會長山崎清三氏は目下樺太視察中であるが此程本社に寄せられた端書を左に紹介する特産パルプを原料とする王子製紙工場、特産野生草フレップの果實を原料とするフレップソイ工場、酒精工場本島特有のイタニ草原料の寒天工場其他日本一鱈漁場參觀儲かる口は山程有之候、佐瀬農商課長、水野郡長諸氏の紹介にて到る所便益を得候、各地(平以下の小市街にも)商業會議所の幹旋には大に助かり候、是は平町等にも急設の必要有之様相感じ候

樺太大泊にて 五月廿八日 山崎清三

又一方新築演武場にては柔道試合催され橋本三段と稻村三段の講道館投の形稻村三段と桑原師範の天神真揚流の形等があつて壯烈を極めた

時の會協議

明日平商にて 平町時の會にては明日午前三時から平商業學校にて幹事總會を開き時の記念日

水源地上流の發電所許可 不當を叫ぶ聲愈々白熱化

區長を召集して凝議

平町水道水源地上流に小田炭礦發電所設置を縣當局が許可した事は曩に不同意を決議したる平町會を無視したるものなりとして町會に於て物議を醸したるは既記の如くであるが町當局は行政訴訟の形式に據つても其不當許可なる理由の是非曲直を決せざるべからずと爲し本日午後二時から役場議事堂内に各區の區長及び衛生區長を召集し伊坂町長から經過報告あり種々協議を遂ぐる處あつたから愈々同問題の火の手は揚げられた

他女の結婚

平署に告訴

石城郡小名濱町字小港一五七漁夫後藤某の長女ミキヨ(三)は昨年の大震災で東京より十一月頃歸郷してゐた情婦を賣り

明大のマンドリン

部員が來平

明大マンドリン俱樂部にては最近音楽界に新氣運を開いたマンドリン樂を地方に紹介すべく福島を振り出しに東北地方に演奏旅行を試みる筈であるが近く平町に

石城郡小名濱町字小港一五七漁夫後藤某の長女ミキヨ(三)は昨年の大震災で東京より十一月頃歸郷してゐた情婦を賣り

女泥棒

捕はれた

下駄を二百足

次郎は同人を四倉町千鳥屋に酌婦として働かせて其の後他人と結婚をした爲め去る廿八日平署に誘拐の告訴を提出したと

不平受付

投書歓迎

平町三丁目飲食店志賀とせ(三)は同町鈴木履物店事鈴木銀次郎店員谷口松太郎(三)石井太郎(九)の兩名を教唆し昨年十二月頃から下駄及び鼻緒など約二百足價格二百餘圓窃取せしめて之を女中姓不詳ふく及び字長坂渡邊屋旅館止宿岡部茂(三)の兩名に事情を明かして賣却せしめた事發覺し五名共平署に逮捕嚴重取調中である

十一圓

の生産費

本縣蠶糸課が調査した繭一貫目生産費の内譯を擧ぐれば次の通りである

繭一貫目は
△蠶種代(七蛾)五十錢
△人夫賃(二人五分)三圓廿一錢
△桑代(十七貫)五圓十錢
△薪炭代(二貫)五百
△八十七錢五厘
△蠶室損料廿錢
△蠶具損料六十錢
△點灯料十錢
△糶糶代(一斗五升)四錢五厘
△簇(五枚)十五錢
△組合費五錢
△其他雜費四十錢
(合計十一圓)

平町合格者

廿四名の氏名

平町本年度徵兵検査の結果は既記の如くであるが甲種合格者卅四名の氏名は左の如くである

長橋町佐藤龜吉、同眞田友重、同藤澤正夫、紺屋町高春源一郎、同桃山亥之介、堂の前畑中繁太郎、鍛冶町宮田辰馬、二丁目坂田英介、三丁目佐々木

運動熱鼓吹

兩社の試み

昨日警城新聞社にては平商コートに於て郡内少年庭球大會を催し警城日日新聞社にては平四倉間のマラソン

山神祭

各炭礦の催し

石城郡内の各重なる炭礦は六月六七兩日舊五月節句を期し毎年山神祭を行ひ同時に各種の餘興等を催して従業員を慰安する事となつて居るが古河炭礦では尙これ

平町人事

出生

婚姻

死亡

△南町 當時茨城縣多賀郡分村山田徹郎長男徹夫
△東京市本郷區本郷四丁目 神谷深氏(三)紺屋町秋間フジ(三)五
△南町 遠藤勝子(二)
△南町 古川フク(六)